雨の朝巴里に死す（1954）

THE LAST TIME I SAW PARIS

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 116分
初公開日 1955/04/16
公開情報 ＭＧＭ

【解説】

“失われた世代”の作家、フィッツジェラルドの名短篇『バビロン再訪』の舞台を第二次大戦後に置き換えて映画化した、Ｒ・ブルックスの脚本・監督作。欧州人同士の競り合いに外様のアメリカ人が出向いたにすぎない第一次大戦と、反ファシズムという明確な意義に充ちていた第二次大戦とでは、その質はまるで異なり、原作に漂う喪失感を移植させるなど無理な話。その結果、適当に取り繕ったメロドラマとなった感は拭えない。終戦の日のパリで出会った元従軍記者で作家の卵チャールズ（Ｖ・ジョンソン）と美しい娘ヘレン（Ｅ・テーラー）。やがて劇的にゴールインするが、ヘレンの姉マリオン（Ｄ・リード）もチャールズを愛していたが、傷心を抱えたままクロード（Ｗ・ピジョン）と結婚。妹夫婦には娘ヴィッキーが誕生したが、奔放なヘレンは毎夜遊び歩き、家に寄りつかない。そのうち、夫も酒に溺れるようになる。ヘレンは病床に就きやがて死に、娘は姉夫婦のもとで育てられることに……。それから数年経ち、作家として世に出たチャールズはパリ（つまり原作のバビロン）を再訪する。娘を取り上げられざるを得ない打ちのめされたチャーリーが、メロドラマ的興趣とはなった。

【クレジット】

監督	リチャード・ブルックス	Richard Brooks
製作	ジャック・カミングス	Jack Cummings
原作	フランシス・スコット・キー・フィッツジェラルド	Francis Scott Key Fitzgerald
脚本	ジュリアス・Ｊ・エプスタイン	Julius J. Epstein
	フィリップ・Ｇ・エプスタイン	Philip G. Epstein
	リチャード・ブルックス	Richard Brooks
撮影	ジョセフ・ルッテンバーグ	Joseph Ruttenberg
音楽	ソウル・チャップリン	Saul Chaplin
	コンラッド・サリンジャー	Conrad Salinger
出演	エリザベス・テイラー	Elizabeth Taylor
	ヴァン・ジョンソン	Van Johnson
	ドナ・リード	Donna Reed
	ウォルター・ピジョン	Walter Pidgeon
	エヴァ・ガボール	Eva Gabor
	ジョージ・ドレンツ	George Dolenz
	リーフ・エリクソン	Leif Erickson
	ロジャー・ムーア	Roger Moore

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.